大障教ニュース

大阪府立障害児学校教職員組合
大阪市天王寺区東高津町７－１１
府教育会館７０４号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

府教委、北河内地域・中河内地域・泉南地域の通学区域割変更を発表

「過大・過密」解消には「基本方針」を見直し、支援学校の適正規模による適正配置こそ必要

府教委は1月15日、「2020年度大阪府立知的障がい支援学校における通学区域割の変更について(通知)」を府立支援学校の校長・准校長と市町村教育委員会宛に発出し、「府立支援学校における知的障がい児童生徒の教育環境の充実に向けた基本方針」(以下、「基本方針」)にもとづいて北河内地域、中河内地域、泉南地域の通学区域割を変更すると発表しました。

通学区域割変更の内容

今回の通学区域割変更の内容は、①現在枚方支援学校高等部の通学区域割となっている「交野市全域と枚方市(長尾中、長尾西中、杉中、津田中の校区)」の高等部入学生徒を交野支援学校四條畷校、②現在八尾支援学校高等部の通学区域割となっている「東大阪市(長栄中、意岐部中、小阪中、金岡中、布施中、上小阪中、長瀬中、弥刀中、柏田中の校区)」の高等部入学生徒を生野支援学校、③現在佐野支援学校の通学区域割となっている「泉佐野市・熊取町全域」の小学部・中学部入学児童生徒を泉南支援学校に2020年度の入学児童生徒より、学年進行で移行するものです。

過大・過密」解消にならない場当たり的な数合わせ

大障教はこれまで、府立支援学校の「過大・過密」を根本的に解消するためには、学校の適正規模による適正配置を行なうことが必要だとして、特に東大阪地域、堺・泉北地域、岸和田・貝塚地域、大阪市地域への学校建設の必要性を訴えるとともに交野支援四條畷校の本校化を求めてきました。昨年12月に行われた大障教本部交渉で私たちの要求に対して府教委は、「基本方針」で示した「既存施設の活用」「他の支援学校との併置」「高校内分教室の設置」「600人程度の新校整備」をくみあわせて児童生徒の増加に対応すると説明していました。

今回の「通学区域割の変更」について府教委は、「既存施設の活用」の具体的内容とし、2022年度までに150人程度に対応する見込みと説明しました。この施策がすすめられても「過大・過密」の解消にはつながらず、さらに長時間通学を強いられる子どもが増大することは必至です。このような場当たり的とも言えるような施策を繰り返していては、教育行政への保護者の信頼を失うことも懸念されます。今回の変更は、明らかに子どもたちの数合わせを行うためのものと言わざるを得ません。

適正規模・適正配置をめざして運動をすすめよう

府教委は、2018年から10年間で支援学校に在籍する知的障がい児童生徒が1400人増加する見込みを発表しながら、支援学校整備は2023年～2025年に600人程度としています。2018年5月現在、児童生徒が300人を超える府立支援学校は11校(八尾392人・富田林329人・佐野393人・高槻325人・豊中346人・寝屋川357人・和泉335人・枚方382人・西浦413人・生野支援308人・東住吉390人)あります。1992年に大阪府学校教育審議会が知的障害の特別支援学校(当時は養護学校)の適正規模を150人～200人とする答申を出しましたが、それ以後今日に至るまで、その実現にはほど遠い状況が続いています。

意見集約にご協力を

大障教は引き続き、「過大・過密」を解消するために「基本方針」の見直しを求め、府立支援学校の適正規模・適正配置をめざして、父母・教職員のみなさんと力を合わせて運動をすすめます。

府教委が発表した通学区域割に関して、職場からの意見などを大障教までお寄せください。

大障教ホームページアドレス　http://fc06331220171211.web2.blks.jp/　Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

昨年末の12月、安倍内閣は新たな「防衛計画の大綱」と「中期防衛力整備計画」を決めました。5年間で27兆5千億円もの税金を、軍事費につぎ込もうという大軍拡計画です。海上自衛隊の護衛艦を改修し、米国製の戦闘機を載せて航空母艦化するだけでなく、敵基地攻撃のための長距離巡航ミサイルを導入するなど、「専守防衛」からの明らかな逸脱です。

また、戦闘機F35を105機も追加購入して147機体制にすることも決められました。F35は、「史上最も高額な兵器システム」と言われる米国製の最新鋭ステルス(レーダーから探知されにくい)戦闘機です。防衛省が公表した機体の購入費と維持費の総額は、最低でも6兆2千億円という巨額なものです。しかも、F35は米国に価格決定権があるため、米側の都合で価格が高騰する可能性もあります。まさに、トランプ政権言いなりの「浪費的爆買い」そのものです。

こうして、来年度予算案の軍事費は、7年連続増の5兆2574億円に達し、今年度の第2次補正予算案でも軍事費4千億円が追加されました。一方、高齢化などに伴う社会保障費の自然増6千億円のうち1200億円が削減され、低所得世帯の後期高齢者医療保険料も2～3倍に引上げられます。国民の福祉と暮らしの予算を冷たく削って大軍拡を進めるなど、亡国の予算とも言えるでしょう。

国連事務総長が発表した「軍縮アジェンダ(計画)」は、「高まった緊張や危険は、真剣な政治的対話や交渉によってのみ解決できる。兵器の増強では決して解決できない」と、軍拡計画の愚かさを痛烈に批判しています。

「問題行動」は発達要求のあらわれ

ブロック別学習会シリーズ④

北摂豊能ブロック　学習交流会

11月24日、北摂豊能ブロックの学習交流会が十三で開催され、摂津、高槻、茨木、箕面の各分会から6人が参加しました。学習会は日頃悩んでいることや困っていることを交えながらの自己紹介で始まり、少ない参加者でしたがにぎやかな会になりました。

講師の宮本郷子さん

講演は、宮本郷子さん(龍谷大学、ポポロ大東相談員他)による「子どもの心の声に耳を傾けて～困っていることに共感しよう～」でした。宮本さんは、子どもの内面やこころの育ちを、年齢を追って「姿勢・運動」「手指の活動」「ことば・表現」「自我」「友だちや生活」などの面から話しました。「友だちにつかみかかる子ども、このつかみかかる手をどこに向けてあげるのか」「できない自分に悩む子どもには、失敗してももう一度がんばる気持ちの立ち直りの援助を」など、子どもを理解するとは、子どもに寄り添うとはどういうことかということを、ご自身の実践の経験を交えて語りました。

後半の交流では、「ゆっくり子どもと遊ぶことができれば唾吐きをしなくなるとわかっていても、その時間が取れない」「先生が評価されるから、子どももできたかできなかったかで評価してしまう。大人も子どもも二分的評価にとらわれている」「子どもの思いに共感したいが、他の先生の目や社会規範も気になる」など、日頃、話ができない、胸につかえていることを出し合いました。すぐには答えが出ない問題も、話をして共感し合うことで元気になりました。

最後に宮本さんは、『問題行動』の裏にある子どもの願いを読み取り」、「子どもの好きな世界を大切にして、そのことに大人が共感することから始めましょう」と結びました。

住民の命を脅かす自衛隊の実弾演習はやめよ

12.8住民の命をまもり、自衛隊の実弾演習に反対する饗庭野集会

11月14日滋賀県の饗庭野演習場で大阪の部隊が81ミリ迫撃砲の射撃訓練中、発射された弾丸が国道を直撃し、民間の車の窓ガラス等を破損させたニュースは記憶に新しいところです。12月8日(土)饗庭野演習場のある近江今津で「住民の命をまもり、自衛隊の実弾演習に反対する饗庭野集会」とそれに続くデモが行われ参加してきました。

集会はこれまで別々に活動していた滋賀県内の三つの平和団体が共同で呼び掛け、近畿各地から大勢の人が集まりました。

さて、饗庭野演習場ですが、東西に6～7キロ、南北に4～5キロと小さな演習場で、その中を国道303号線という交通量の多い道が通っています。演習場の脇を国道が通っているのではなく、演習場の中を国道が通過しているのです。

3年前にも演習場に近い集落の民家の屋根を重機関銃の弾丸が直撃したそうです。地元のおばあさんは、「あの時に引っ越しておけばよかった。もう二度とないと説明を受けていたのに…」と不安を語り、おじいさんは「今度ばかりは我慢ができない」と話されていたそうです。

この演習場には、西日本各地の自衛隊が演習に訪れるため、「狭い演習場」という意識も「国道が通過している」という認識も持ちにくく、実弾演習には非常に不安を感じるとの話や「戦争法」ができてから訓練の内容がより実践的に変わってきていること、来春にはオスプレイも参加する米軍との合同演習が予定されているなど、住民の命が脅かされる事態がますますの進行しているとの地元からの報告を聞きました。

今回の迫撃砲の事件は一歩間違えれば生命に関わる重大事件なのに、道路への着弾後もそのまま訓練を続けていたとのことでした。

現在迫撃砲の訓練はストップしているようですが饗庭野演習場でのすべての実弾射撃訓練を中止すべきだと強く感じました。

感想で～す！

○子どもたちが困っていることに目を向けられる学校になるため、少しずつそんな話ができるといいなと思いました。

○待つことの大切さ、子どもが主体だと考えることなど、気づきがたくさんありました。

○子どもが困っているという視点など、日々の教育の中で忘れてしまっていることもあり反省ばかりでしたが、職場に伝えていきたいと思います。

○「問題行動」の裏にある子どもの思いを、よく見ていけるようになりたいです。